

「食と農」の博物館 展示案内

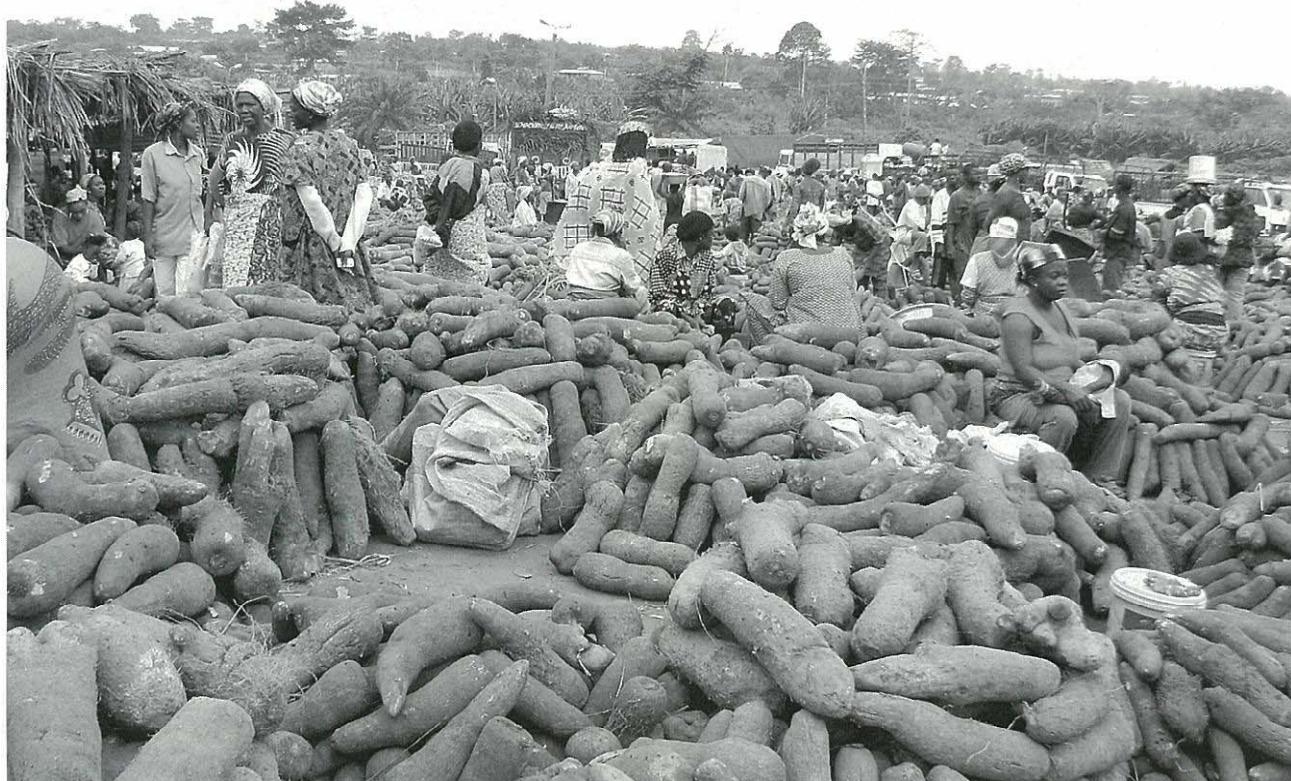
No.19

東京農業大学「食と農」の博物館
〒158-0098 東京都世田谷区上用賀2-4-28
TEL.03-5477-4033 FAX.03-3439-6528

開館時間 午前10時～午後5時(4月～11月)
休館日 午前10時～午後4時30分(12月～3月)
月曜日(月曜が祝日の場合は火曜)・毎月最終火曜日
大学が定めた日(臨時休業がありますのでご注意ください)

展示期間
2007.3.15～4.15

熱帯作物資源に潜む力 —日本熱帯農業学会50年の軌跡をふまえて—



ガーナのヤムイモマーケット

はじめに

熱帯にある多くの発展途上の国々は、生物資源の宝庫であり、その有効活用は、これらの国々の深刻な貧困問題のみならず、地球規模でのエネルギー資源不足を解決する鍵になると考えられます。これらの問題は、世界的課題として国際機関や各 government、さらにはNGOや学会、草の根運動などにより多角的に取り組まれています。本展示では、熱帯の豊かな生物資源を有効活用した世界的課題への取り組みやフェアトレードの成功例などを紹介します。

新しい稲 ネリカ

アフリカの貧困問題解決の切り札になると言われているネリカ(New Rice for Africa)は、人工交配のきわめて難しいアジアネとアフリカイネの雑種から育成され、天水田で栽培できる、いわば陸稲の品種です。特徴としては、栽培期間が短く、乾燥と酸性土壌に強く、雑草との競合に強いうえに、肥料が少なくても、ある程度収量があげられることです。現在、アフリカで18品種が普及されています。



ギニアにおけるネリカの普及 写真:笹川アフリカ協会

キャッサバとヤムイモ

キャッサバとヤムイモは熱帯地域の重要な食料資源であり、それぞれ約2億トンおよび4千万トンが生産されています。

これらのイモ類の新しい高収量改良品種は、アフリカ地域で急速に普及しているばかりでなく、近年、イモ類の加工機械の導入により、これらの高収量品種を使って、多くインスタント製品が生産・供給されるようになってきました。そこで、いも類をはじめとする食料の生産性の向上が進展しているアフリカの現状を紹介し、加工製品などを展示します。この巨大な熱帯原産のヤムイモをご覧下さい。



西アフリカのヤムイモ(ホワイトヤム)



キャッサバの3倍体品種 写真:ITIA



キャッサバの加工機械



キャッサバの加工製品



生産が増えているヤムイモ粉
フフという伝統料理に使われる

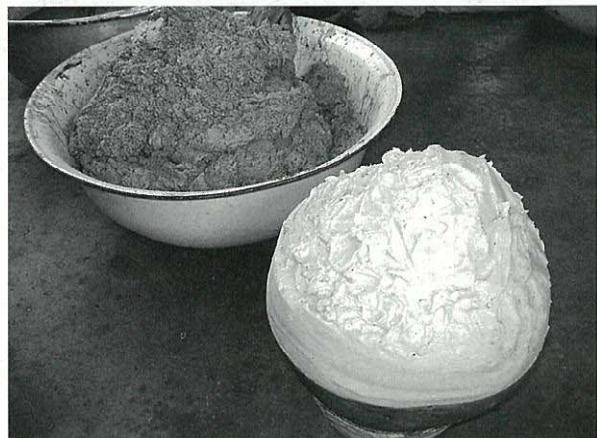
シーアバターノキ

西アフリカのサヘル地域(半乾燥地帯)に自生するシーアバターノキからとれる良質な油脂を含む種子は、古くから現地の人々により利用されてきました。

この油脂は、優れた保湿成分を含むため、ヨーロッパでは高級ナチュラル石けんに利用されています。そのため、シーアバターノキの栽培化が試みられるとともに、西アフリカの新たな特産作物として大きな期待が寄せられています。



シーアバターノキ



種子から作ったシーアバター

カムカム

アマゾンに自生するヤマモモ科の熱帯果樹カムカムは、コカ栽培の代替作物として栽培され、その果実が一次加工され、日本に輸入されています。わが国では、ビタミンが比類なく豊富で清涼感にすぐれたカムカム・ジュースが人気商品となっています。美味しいジュースを買って麻薬撲滅に役立つことは、一石二鳥と言えます。

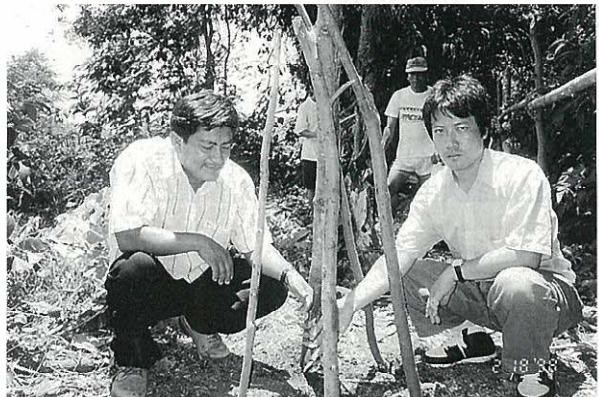
これらの技術の確立と普及に尽したペルー農民支援プロジェクトについて、フェアトレードを成功させるまでの経験と、そこから得られた教訓ならびに今後の展望などを紹介します。



カムカムの果実



カムカムの収穫風景



元MRTA幹部への栽培指導



カムカム製品

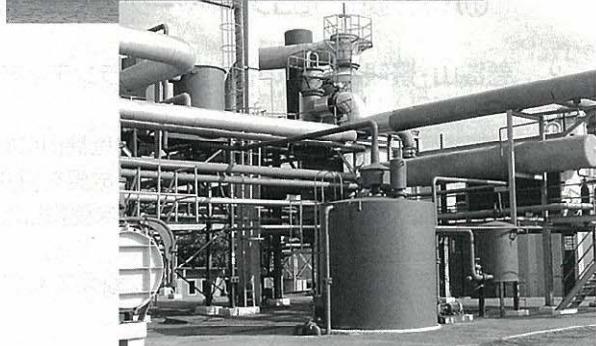
バイオエタノールとバイオマテリアル

地球規模での化石エネルギー資源の枯渇が懸念される一方で、それらの争奪戦が石油などの価格上昇を招いているばかりでなく、間接的に砂糖や家畜飼料の価格までも押し上げています。

その訳は、砂糖や家畜飼料の原料となるサトウキビやトウモロコシがバイオエタノールの原料として使用され始めているからです。

石油価格の上昇に伴い、バイオエタノールは、地球環境にやさしい再生可能なエネルギー資源としてにわかに脚光を浴びています。サトウキビをはじめ高い収量性を持つ熱帯作物は、バイオエタノールばかりでなく、再生可能なバイオプラスチックの原料としても注目されます。

そこで本展示では、イモ類などを用いたバイオマスエネルギー生産システム開発の現状を紹介し、21世紀の私たちの生活を、熱帯作物がどのように変えてゆくのかを予測・展望します。



ブラジルパラナ州のバイオエタノールプラント、原料はサトウキビ

熱帯作物資源に潜む力

■関連イベント

■シンポジウム

日本熱帯農業学会創立50周年記念シンポジウム
「豊かな熱帯生物資源が解決する貧困とエネルギー問題」

日時：2007年3月31日（土） 14:00～17:45

場所：東京農業大学百周年記念講堂（世田谷キャンパス）

※参加無料・直接会場においでください。

■イモを食べてみよう

展示したイモを切って配ります。是非ビニール袋を持っておいでください。
今までにない経験と味が楽しめます。

日時：2007年4月15日（日） 13:00～なくなるまで

■後援・協力者一覧

後援：東京農業大学

協力：カムカム協会東京本部

国際熱帯農業研究所（IITA/ナイジェリア）

トヨタ自動車株式会社

■展示委員会一覧

企画：日本熱帯農業学会創立50周年記念展示委員会

東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科

委員長：豊原 秀和（国際農業開発学科 教授）

委員：大田 克洋（同 教授） 高橋 久光（同 教授） 志和地弘信（同 助教授）

小塩 海平（同 助教授） 入江 憲治（同 講師） 中曾根勝重（同 助手）

真田 篤史（同 助手） 稲泉 博己（国際バイオビジネス学科 助教授）

これからの展示

1. 屋上緑化・壁面緑化～熱くなる大都市へ造園家の挑戦

2007年4月20日（金）～11月15日（木）

現代社会における最大課題でもあるヒートアイランド現象に対峙する屋上緑化について

①パネル展示 ②コンペやワークショップの開催 ③講演会の開催 を行う。

2. 巻機山・景観と植生の復元展～ボランティアが築いた30年の成果～

2007年4月20日（金）～7月20日（金）

植生破壊、景観破壊された新潟県の巻機山における30年に及んだ農大生・ボランティアの「景観と植生の復元活動」の取り組みとその成果を紹介。

この活動は第15回朝日森林文化賞を受賞した。パネル、登山具の現物展示など。

3. シリーズ「稻と米～稻が私たちに教えてくれること」稻はどこで作られているの（仮題）

2007年4月20日（金）～5月31日（木）